

第66回 埼玉県美術展覧会審査評

【第1部 日本画】

審査主任 ^{やました} 山下 ^{くにお} 邦雄

出品作品の全体の印象として、色使いやモチーフの面から暗い印象の作品が多く見られたような気がします。世の中の先行きの不安さを反映でもしているのでしょうか。

一方で、応募者が減っている公募展が多い中、今年の出展数は昨年よりも13点増加し、212点となりました。入選率は、72.6%と、ほぼ昨年並みです。また、高校生などの出品が前年の7点から25点へと、大きく増えました。日本の伝統的な画材に触れる機会の増えた、創作意欲に溢れる若い世代がいることに希望が見い出せます。

こうした若者たちにはこれからも様々な機会を捉え、日本画に親しんでいただき、更なる日本画界発展の原動力になってほしいと思います。

・埼玉県知事賞

「狭間」 ^{はざま} ^{かわもと} 川本 みつ子

スケッチブックに写生したサボテンや花の図などを並べて描いているうちに構成され一枚の絵が出来上がり、そして、絵の中に作者も入り込んでいる感じで新しい絵になっています。不思議ともいえる作品の作り方で構成力が感じられます。たいへん色彩のバランスもとれて美しく作者の個性が出ている作品です。

・埼玉県議会議長賞

「森の使い」 ^{もり} ^{つか} ^{なかや} ^{こゆき} 中谷 小雪

深秋、赤紫に染まった深い森の中からのそりと現れた一頭の雄鹿。その登場によって物語の始まりです。空気感もその絵の中に描かれていることで森の中の静寂が表現されています。背景の森のマチエールも美しく、鹿の視線に見る者も誘われる作品です

・埼玉県教育委員会教育長賞

「蔓梅擬」^{つるうめもどき} 平出^{ひらいで} みずほ

蔓梅擬の実の赤が、複雑で豊かな背景の上に強く輝いています。この絵は蔓、葉、実の絡み合いの美しさ、そして充実感もあります。絡みのある植物に取り組まれ、よくその魅力を引き出しました。細密に描くところと、そうでないところがはっきりとわかり、うまく面白さに繋げているところが魅力となっています。

・埼玉県美術家協会賞

「無言歌」^{むごんか} 場勝^{ばしょう} 玲子^{れいこ}

端正な形とモノクロームの画面の中で、花瓶に差されたチューリップのわずかな赤が絵を魅力的にしています。バックや枝、花の筆触も密度があつて良いです。前面に枝花を横に配したことで安定感と広がりを出しており、部屋の一隅を思わせる作品です。

・埼玉県美術家協会賞

「秋露」^{あきつゆ} 森田^{もりた} 和彦^{かずひこ}

本来であれば色彩豊かであろう植物を、あえてモノクロームで表現しています。土や葉にわずかな色が見えます。ひまわりのうねる茎や葉と、むこうに見える彼岸花の形を効果的に組み合わせ、構図や形に工夫が感じられる作品です。

・共同通信社賞

「家路」^{いえじ} 高橋^{たかはし} 良江^{よしえ}

河原に茂る枯れすすきが画面を埋めている。そして、遠くに子供が家路を急いでいる、のどかな情景です。茶色に枯れたすすきの味わい深い美しさに、深まる秋を思います。

すすきの茎や葉がとても丁寧に描かれ魅力ある作品になっています。

・埼玉県美術家協会会長賞

「^{たび}旅^でに出る^{ゆめ}夢」 ^の野^べ邊 ひろみ

夕暮れの中、テーブルにランプを灯して、物思いに耽る女性。闇に包まれようとしている情景の中でランプと花と人だけの明るさが効果的になっています。モノクロームの中に少ない色を配することによって、全体の美しさを出しています。夕方の寂しさの中にランプと花を配することによって温もりのある作品になりました。

・高田誠記念賞

「^{ふうとん}胡同」 ^{とく}井 ^{まさあき}正明

中国の街だろうか、瓦と煉瓦の壁と木の調和が美しいです。全体的に淡い調子で質感をたくみに表現している一方で、人物が濃くなっているのもポイントとして良いです。地面が白いですが大地を感じさせます。静けさの中に不思議な魅力が感じられる作品となっています。